

# 四国遍路の心でつなぐ防災教育研究会 公開シンポジウム

日時：平成28年12月23日（金・祝）13:00～15:45

場所：サンポート高松 第2小ホール

主催：四国遍路の心でつなぐ防災教育研究会（本研究会は、四国遍路へのおもてなしなど、郷土に根付く「共助」の精神文化から防災を考えるもので、特定の宗教を指示するものではありません。）

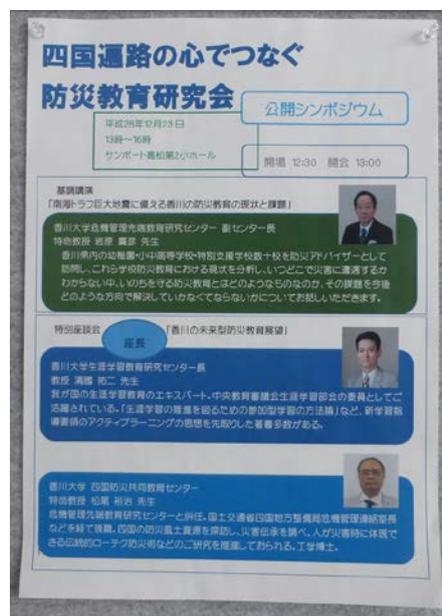
後援：香川県、高松市、公益社団法人日本青年会議所香川ブロック協議会、NTT西日本香川支店、公益社団法人日本技術士会四国本部、香川県技術士会・かがわ防災技術研究会

内容：

## 13:00～13:03 十河陽之助（そごう ようのすけ）四国遍路の心でつなぐ防災教育研究会会長、

### 青年会議所四国支部会長、四国88カ所礼状会青年部会長

- ・「四国遍路と防災をいかにコミットしていくか」、最初に聞いたとき「なんじゃそれ？」。
- ・四国遍路は1400年、小さなコトを積み重ねてきた。防災も小さなコトの積み重ね、「昔こんなことがあったよ」という親から子供に伝えていく積み重ね。あとは原体験が四国、日本を強くしていきます。
- ・新潟の糸魚川市：火事が危ないということを原体験として記憶に残し。なぜ火が危ないのか、地震の時にコンロの火を消さなければいけないのか、この研究会で子どもに伝えていければと思う。
- ・大学の先生からの子どもには難しい話だが、大人が学び子どもに伝え、四国遍路と防災の意識を後世に伝えていきたい。
- ・防災について考える機会にしてください。



## 13:03～13:07 趣旨説明 研究会事務局 花崎哲司（はなざき さとし）

- ・この取組は画期的な意味を持つ。学校教育は将来へ繋ぐことをモットーに教育している。そこにはいろいろな問題点、課題があり、それをどう解決していけばいいのか。
- ・香川大学の岩原先生からは、学校をまわったところから気づいたことをお話しいただく。
- ・座談会では、清國先生に座長を務めていただき、香川大学の松尾先生に登壇いただき、社会へ向けた防災はどうあるべきかお話しいただく。
- ・子どもたちが災害の時にどうすればいいのか分からない。香川には大きな災害がこないと思われているのは間違い。子どもたちと大人たちが楽しく学べる仕組みづくりを構築しようとしている。
- ・香川大学の先生からは知恵、青年会議所からは行動力と知恵、技術士会からは生活経験、専門性のある経験からのお話をいただく。
- ・四国遍路とは「おもてなしの心」といわれる。お遍路さんが行き倒れたり、困っていたときに手助けする香川県民の心があり、災害時にも「心の盾」になる。
- ・行政は大きな災害の時には機能保全となる。今一度ご近所さんとのつながりについて見直す機会を提供する。
- ・家に、職場に、地域に持ち帰り、今日のお話をしていただければありがたい。

**13:07~13:40 基調講演「南海トラフ巨大地震に備える香川の防災教育の現状と課題」**

○講師：香川大学 危機管理先端教育研究センター 副センター長 特命教授 岩原廣彦

○防災力

- ・ 予測力、予防力、対応力

○学校防災教育で重要なこと

- ・ 防災教育を実践する上での五箇条
  - 1) 地域の特性や問題点、過去の被災経験を**知る**こと
  - 2) まずは**行動し**、身をもって**体験**すること
  - 3) **身の丈に合った取組**とすること
  - 4) 様々な立場の関係者と**積極的に交流**すること
  - 5) **明るく、楽しく、気軽に実行**すること

○防災イベントと環境イベントとの違い

- ・ 環境イベントは生活に近く日常的で、楽しくでき、続き、浸透しやすい。
- ・ 防災イベントは、非日常で、まじめで、脅しで、続かず、浸透しにくい。

○防災教育をどう考える

- ・ 人間の関心をつかませるのは難しい。
- ・ 災害は、30年に1回、2回、経験するかしないかのイベント。

○避難勧告が出ても逃げない住民

- ・ 平成26年7月12日：583世帯1634人に避難勧告した宮城県東松山市で避難したのは1名のみ。
- ・ 平成28年11月22日：8570世帯2万1892人に避難指示、最大 人が避難した。

↓

この差は、自分が大きな揺れを経験するかどうかで、避難の判断が変わった。

○防災意識を広げるには

- ・ **当事者意識**を持つ（他人ごとではない）
- ・ **自分で考えることが大事**。責任感を植え付ける。

↓

- ・ 大人の防災意識の向上に「学校での防災訓練」を活用。

○実践的な避難訓練のあり方の必要性

- ・ 形骸化した訓練内容（「おはしも」「押すな・はしるな・しゃべるな・もどるな」が効果的か？）
- ・ 知識だけの教育に偏っていないか。 → **知識は忘れる。意識とすることが大切。**
- ・ **危険に気づく・体験させる。**
- ・ **考える**
- ・ **行動に移す**（自分のため、人のため）
- ・ 何が避難行動のトリガーとなるか

○対応能力（リテラシー）訓練

- ・ 自分を知る

- ・応用能力を身につける

#### ○発達の段階に応じた防災教育

- ・幼稚園：団子虫のポーズ → 自分の身を守る
- ・小学生：身のまわりの危険を見つける → 危険に備える
- ・中学生：将来の防災の担い手として避難所運営訓練 → 地域と関わる

#### ○子供の防災教育の役割区分

- ・学校：防災基礎知識 地震はどうして起こる？ 地震による被害は？ 身を守るためには？
- ・地域：防災応用知識 地域の災害の特徴は？ どこが安全か？
- ・家庭：防災個別対応知識 おじいちゃんおばあちゃんは？ いつどこに避難すればよいか？

#### ○訓練の意味

- ・訓練を経験している人は、行動に移すことが出来る。
- ・訓練に参加していない理由の最大は「訓練実施のお知らせがこなかった」（71%）
- ・毛布と棒による担架、バケツリレー、消火訓練
- ・親子によるゴミ袋による防寒着づくり ← 親子で行うことで無関心層を引き込む
- ・新聞紙で作った紙スリッパで、ゴツゴツのマットの歩行の違いを体験

#### ○気づきの防災訓練

- ・子どもたちには何も教えていない。教員にも、あまり教えていない。
- ・教室から体育館までの経路に、状況を書いた紙。
  - 「上から落ちそうなものがあります」 → 頭を守らないといけない
  - 「足元にガラスが散乱しています」 → 足元をしっかりと見て歩く、なるべく爪先立ち
  - 「倒れてきそうな物があります」 → 左から倒れてくる物あり 右によける
  - 「この先で火災が発生しています」 → ハンカチで口を押さえる
- ・小さい子がいないか、いたら連れて安全な場所に避難する。

#### ○気づきの防災訓練のまとめ

- ・子どもたちは、ちょっとしたの違いに気づき、自分で判断し、行動に繋げている。
- ・防災教育の成果（知識としては十分理解している）
  - ↓
  - ・実際、地震に遭遇した場合、行動がとれるか？
  - ・訓練で行っていないことに遭遇した場合は？
  - ・行動力・応用力の教育は？

#### ○防災教育の原点

##### ◇自尊感情を育む

- ・人の命の大切さをわかる
- ・「お互い様」の気持ち（共感性が高い）、人と人の繋がりの大切さ
- ・自尊感情が高い人は困難に出会っても粘り強く努力する

##### ◇防災教育の流れ

- 1) 状況をイメージさせる
- 2) 正確な知識に指導する

- 3) 実際の行動に移す
- 4) 助かる人から、助かる人へ

○居安思危（きょあんしき）

- ・安（やす）きに居（お）りて危（あやう）きを思う  
普段から万が一のことを思い、常に用心を怠らないようにすることが大切という戒めの言葉
- ・平素から行政や住民・児童とコミュニケーションを図り、災害発生時の地域毎の共通認識とお互いの協力関係の構築が大切

**13:40~14:22 特別座談会「香川の未来型防災教育展望」 ～学校教育で成し得なかった課題解決のために～**

- 座長：香川大学 生涯学習教育研究センター長 清國祐二  
香川大学危機管理先端教育研究センター 副センター長 岩原廣彦  
香川大学 四国防災共同教育センター 松尾裕治  
四国遍路の心でつなぐ防災教育研究会事務局 花崎哲司

清國：栗林小学校の取組。まず、松尾先生から実践のことについて紹介を。

松尾：四国の災害伝承を研究している。ローテク防災術から小学生、幼稚園生への取組を話題提供する。

◇三種のローテク防災アイテム

- ・浸水時、命を守る「**さぐり棒**」 水路やマンホールに落ちないように、足下を探る
- ・避難の目安を得る雨量計「**アメミルペット**」
- ・足を守る「**新聞紙スリッパ**」

◇楽しく学ぶ防災ゲーム

- ・地震まんの手下をやっつけるゲーム 香川の転倒対策は12%
- ・足を守る大切さを教えるゲーム
- ・助け合って避難する大切さを教える津波避難ゲーム

花崎：

- ・セオール号の沈没 「船内で待機してください」のアナウンスに先生も生徒も待機し、沈没。
- ・地下鉄 隣の電車が燃えているのに、逃げずに被災。
- ・大きな災害が起きたらどうするのと聞くと、「コンビニにおにぎりを買に行けばいい」と考えている先生。
- ・避難所に逃げてくるのは弱者の人たちが大半。地域で支える、生涯学習が大切。

◇生涯学習

- ・生涯学習の仕組み、評価の方法。評価の方法についてお話しいただけませんか。

清國：

- ・防災イベントと環境イベントとの根本的な違いは「日常」ではなく、かたく、どう広げていくかは大きな課題。
- ・様々な事故の時に、どう人の命を守っていくか。
- ・栗林の公園で子どもが骨折する事故に遭遇した。パニックを起こさないように「指揮」、**正確に**

**指示を出すことの大事さ**を感じた。知識、経験が必要。

- ・評価を考えるうえで、「指揮」の視点も。指揮をとれる人の人材育成は、違った取組が必要なのか、一般の取組から出てくるものか。

岩原：

- ・ **リーダーとなるような資質と能力を事前に涵養していないと難しい**。自主防災組織の会長は、リーダーとしての認知を受けており、知識も有している。
- ・ 防災士の資格を取った学生には次のステップとして、リーダーを務められるよう、十分な情報がないなかで予見する訓練など行うことが大事。

清國：地域には自主防災組織があり、役割がある。知識を意識にというお話に、

- ・ 香川大学の防災士養成講座：今年は161人の防災士を養成。その方々が地域のリーダーを担っていただき。
- ・ より多くの人たちが楽しく学ぶことがメインだった。一般の人たちがまずは気軽に学びの場に出かけていって啓発される。
- ・ いろいろなアイデア、実践のなかで工夫をお聞かせください。

松尾：

- ・ 地域を知ることから始めてもらう。知ることによって考えてもらう。そして行動してもらう。**「知って・考えて・行動する」**ことで、初めて家族を守れる。
- ・ お遍路さんはポストマンだった。災害が起きた話なども伝えていった。防災文化を守る文化が出来ていた。
- ・ **知識よりも意識**。さらに、**知識を行動するものにして知恵に**。
- ・ 知識を知恵にし、行動する人になってもらいたい。

清國：

- ・ 生活者として過去の先祖が残してくれたもの、それを私たちの行動の指針にしていく大事なこと。
- ・ 生活は日常の蓄積のなかで出来ていく。学校では、同じことを2度、3度言わないようにしようと思う。しかし、防災は繰り返しているが、今の風潮は繰り返しを避けているように思うが。

岩原：盲学校の山下ようすけ先生。白状を使っていて、歩くのはどのようにするのですか。

山下：まっすぐな目印を探します。縁石を探してまっすぐ歩く。アスファルトと歩道の境目、段差、ツルツルとザラザラのところの音の違いを探す。歩く人の足音 馴れているところでないときにくいが、まっすぐなものを探して歩いている。

岩原：音の感覚、触覚の感覚、臭いの感覚、**使える感覚を鍛えて、訓練して歩いている**。

- ・ 防災教育、知識と体験の融合で深まっていくということでは。

清國：フロアからいかがでしょうか。

男性：「知識から知恵に」について。防災訓練、アメリカの消火訓練を見ていて印象に残ったことがあります。火事になり避難する際には、隣の部屋が燃えていないかどうかをドアの温度をみて確認する。ドアのノブを握るときにも手のひらでノブを握り、手のひらに火傷を負ってしまうと手を使えなくなる。なので、手の甲で温度を確認しノブが握れる温度かを確認する。具体的な

行動で自分の命を守る術を教えている。さらには、子供は火遊びをするものだと前提で、服が燃えだした、火事になったときの行動を確認していく。

- ・これを地震に置き換えると、多くの地震を経験している日本は、地震への術を世界に発信できる役割にあるのでは。
- ・今日のお話を聞いていての感想です。

清國：知識から知恵に、具体的な術を世界に発信できるのではということですが。

松尾：シェイクアウト訓練 日本の防災は、外国人がびっくりすること、すばらしい防災文化があるのでは。

清國：留学生にピクトグラムをいろいろな国の人に書いてもらっている。

岩原：香川県の1%は外国人。

清國：世界への役割、瀬戸芸にも多くの外国人が来所され、オリンピックにも多くの外国人が来る。  
**外国人に優しい、もちろん日本人にも優しい防災が求められる。一言ずつまとめを。**

岩原：**知識だけではだめ、行動に移せるような防災教育。**自ら事例として、具体的な行動に移せる、外国の事例も参考にしながら。

- ・外国人からは、「どうして家の外に逃げ出さないのか」と不思議がられる。

松尾：「**知力、体力、時の運**（危ないところにはいかないとか）」 これを実践できる人になってほしい。

#### 14:22~14:35 休憩

○災害伝言ダイヤル171 メッセージコンテストとは

- ・災害に遭遇していると思って、メッセージを作ってくれた。
- ・愛がこもっていたらいいですね。
- ・受話器を取り、電話をしているように話していただきたい。

#### 14:35~14:51 災害用伝言ダイヤルメッセージ171 コンテスト本選

○愛媛県新居浜から しおで もえ しおでファミリー ← **171家族賞**

- ・おうちにいるときに地震が来て怖かったけど、みんなと一緒に逃げて大丈夫だったよ。ねこの〇〇もいっしょに逃げたよ。

○しおで ちさ

- ・幼稚園で遊んでいるときにいっぱい揺れて怖かったけど、先生のお話を聞いて団子虫のポーズが出来て無事だったよ。早くお迎えに来てね。

○しおで だいき

- ・学校の帰りに地震が来て、いっぱい揺れてびっくりしたよ。あせったけど、畑でちゃんと待ったので、学校に帰り、みんなで迎えに来てくれることを待っているよ。とうさんと母さんは無事ですか。

○しおで かな

- ・私は今学校にいます。先生の言うことを聞いて逃げているよ。みんなといると少し安心したよ。私はみんなと同じ行動が出来て、私はけがをしていないから安全に来てね。

○やましたけい 高校生3年 代読

- ・白杖はないけど、手引きをしてもらって何とかしています。

○弱視の生徒さん かわにし りょうた ← 特別賞

- ・りょうたです お母さん、お父さん、避難所にいます。無事避難所にいます。何かあったときには、避難所に電話してね。〇〇18歳。

○しみず ゆり (代読)

- ・ゆりです こちらは何もなくて無事です。要るものを言ってくれたら持って行きます。あきらめないで、がんばってね。

○徳島 おおかわ よしあき

- ・もしもし 母ちゃん、大丈夫？ 高松は大丈夫で、待機中。二～三日帰れんと思うから171に電話して。171だよ。

○ほんだ ゆみ ← 香川県技術士会会長賞

- ・お父さん 薬を忘れずに、携帯と電話を忘れずに避難して。電話を入れてくれたら、心配せず、あいかと待っていてちょうだい。

○まつむら こころ 小3 ← 優秀賞

- ・お母さん、お父さん、今は幼稚園にいます。地震が来てすごく怖かったよ。幼稚園にいたらスミレちゃんがいたので、一緒に待っています。すぐに来れないよね。電話が出来ないから困るよ。早く帰ってきてね。

○まつむら なな 母 (代読)

- ・こころ 大丈夫ですか。電話もつながらなくて、どうしているのか心配でたまりません。幼稚園にいますか。会社を出ましたが道路が崩壊していて、すぐに迎えにいけません。一人じゃなくて、誰かといっしょに待っていてください。

○いのまた 夫 いのまたファミリー ← 171家族賞

- ・お父さんも避難しているので安心して。落ち着いたら連絡する。

○いのまた 妻

- ・お母さんです。お父さんも無事です。元気に避難所に来ています。食べ物も大丈夫なので、あたたかしないでください。落ち着いたらこちらから連絡します。

○小4 とみおか りこ ← 最優秀賞

- ・とみおかりこです 〇〇小学校に避難しています。けがはありません、元気です。おじいちゃん、おばあちゃんも無事で、いっしょにいます。お母さん、お父さんは無事ですか。とても不安なので早く会いたいです。迎えに来てくれるのを待っています。

○みぞぶち はると ← 優秀賞

・みぞぶちはるとです 家の中にいたけど、机の下に潜っていたから大丈夫だったよ。パパもママはやともみんな家にいるよ。じいじとばあばは大丈夫ですか。171に伝言を入れておいてください。

・何を伝えたいか、家族への愛情を根拠に審査。

14:51~15:18 審査

15:18~15:30 審査結果発表と講評、表彰式

○優秀賞 2名 NTT香川支店長賞を兼ねる

- ・みぞぶち はると
- ・まつむら こころ

○171家族賞 家族で応募された作品から、家族愛を感じたもの

- ・しおでファミリー
- ・いのまたファミリー

○香川県技術士会会長賞

- ・ほんだ ゆみ 的確な情報と愛情を感じられるもの

○特別賞

- ・かわにし りょうた

○最優秀賞

- ・とみおか りこ

◇とみおか りこさんから、最優秀賞の感想：お母さんと一緒に考えたので、賞に入ってうれしかったです。ありがとう。

15:30~15:40 こども防災マスター認定式

○第1期 こども防災マスター

- ・そごう れんのすけ
- ・そごう ゆうのすけ
- ・ためひろ やまと
- ・ためひろ つばさ
- ・ためひろ はるき
- ・にぶ ゆいな
- ・にぶ ゆうき
- ・あんざい りゅう
- ・まつむら こころ
- ・みぞぶち はると
- ・しおで ちか
- ・しおで もえ
- ・しおで だいすけ
- ・しおで かな
- ・とみおか りこ

○第1期 大人防災マスター

- ・しみず ゆり
- ・おおかわ よしあき
- ・ほんだ ゆみ
- ・いのまた きよゆき
- ・まつむら なな
- ・みやさ かつひこ

○第1期 ジュニア防災マスター

- ・かわにし りょうた

○第1期 大人防災マスター

- ・いのまた たえこ

15:40~15:45 香川県技術士会 かがわ防災技術研究会 副会長 谷脇準蔵

- ・栗林小学校の新しい実践、学校と家庭と地域、防災の取り組み方の道が見えているのでは。
- ・清國先生のリードによる座談会 松尾先生からハイテクで神経が鈍ってきているなかで、ローテク、直近でまわりの変化を感じ取る新たなセンサーをお示しいただいた。
- ・生涯学習の中で防災教育はなかなか困難だが、人づくりとして地道に取り組むべきとの示唆をいただいた。
- ・171のコンテスト 短い準備時間のなかで、いろいろな提案をいただいた。171 毎月15日が練習日で、日頃から使って日常に馴れていることでその時に使えるよう活動いただきたい。
- ・防災フェスタを志度寺で第1回を開催し、お子さんも参加いただき、今回第2回となった。
- ・コンソーシアム、いろいろな香川の防災、人づくりに取り組んでいきたいご支援を。
- ・帰り、寒くなっており、風邪もはやっており、くれぐれもお身体を大切に、良い年末年始を迎えください。

—以上—

## 第1回災害用伝言ダイヤル171 メッセージコンテスト

南海トラフ地震が起こったとき、あなたはだれに、どんな気持ちや安否を伝えますか？



地震や津波では、通信にも大きなダメージが発生



衛星回線を使った伝言ダイヤルの体験 高松市

災害時、自分や家族の安否情報を伝えたい、あるいは確認したいという願いをかなえるシステムの理解啓発のために開催します。

NTT西日本が提供している「災害用伝言ダイヤル171」には、30秒の録音再生可能で、避難所等に開設された電話などから全国に向けて安否情報が発信できます。

30秒の中に入めることのできる情報、伝えたい方への気持ちを、仮想体験的に考えるコンテストで、どなたにもご参加いただけます。ふるってご参加ください。